（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　平成２６年９月５日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104068
法　人　名	有限会社　健眞
事 業 所 名	グループホーム　すずらんの家
所　在　地	鹿児島県鹿児島市平川町1547番地 （電 話）099－284－2655
自己評価作成日	平成26年7月28日

※事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ＮＰＯ法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ケ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・朝１０時からのリハビリ体操で体力を保っている
・洗濯物たたみを利用者と職員と共同で行なう
・家族支援により外出（墓参り、病院受診、食事）
・天気の良い日の散歩（３０～４０分）
・アクティビティー
・ホールにて調理の味見手伝い

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

・当事業所は隣接してデイサービスセンターがあり、災害時の協力関係も構築されている。近くに豊かな公園や散歩コースがあり、地域住民ともふれあいながら生活できる環境にある。

・町内会に加入し、回覧板等で地域と情報のやり取りをするなど、地域の一員として日常的に交流している。

・個々の排泄習慣を把握し、昼夜ともトイレでの排泄を重視し取り組んでいる。おむつを外す取り組みや排泄の自立を支援し、改善がみられた例では家族の喜びも大きい。

・利用者個々人の生活歴や習慣を大切にし、張り合いのある喜びの日々を過ごせるように、力量に応じて役割分担を支援している。

・管理者は話しやすい環境を整えて、職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や提案を積極的に取り入れて、サービスの質向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	常に職員が理念を意識するようにホール、事務所に掲示し、利用者と共有できるよう、心掛けています。職員会議の場でも理念についての話し合いも行なっています。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を、玄関や事務所・ホールに掲示し、職員会議等で理念について話し合い、ケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が町内会に入会しており回覧板にて行事も早く知る事が出来、鏡開きやお茶会等の行事にも参加したり、園内で行う敬老会、花見等に地域の老人会に来ていただいております。	町内会に入会し、夏祭りや六月灯など地域行事に積極的に参加したり、あいご会の相撲大会を見学している。事業所の行事に地域のボランティアの訪問や当ホームと隣接のデイサービスセンター合同行事には地域の老人会の参加があり交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や地域行事の参加等を通して認知症の人の理解をして頂けるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月に一度のペースにて会議を行なっており、様々な意見を参考にさせていただき、その中からサービス向上に役立つ取り組みを実施しています。	会議は定期的に開催し、事業所の行事や状況報告・外部評価の結果報告などを行い、意見交換をして、緊急対応時の地域住民の参加者リストを作成し、事務所に掲示し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者の方とは、書類関係等で話し合い、地域包括支援センター職員とは空き情報等で連絡を取り合って協力関係を築いております。運営推進会議にも出席いただき、その都度多用な事を相談している。	市や地域包括支援センターの担当者とは日頃から利用者の相談や情報を交換してアドバイスを貰っている。福祉関係の担当者とも密に連絡を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	前回の自己評価同様、管理者、ケアマネージャー、施設長、職員全員で勉強会を行なっており職員全員が理解して拘束しないケアを行なっています。	身体拘束廃止委員会が設置され、マニュアルに沿って定期的な勉強会を実施している。職員間でも言葉遣いで拘束しないように声かけあって、身体拘束をしないケアを実践している。昼間は玄関の施錠をせずに職員間の連携で自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	特に会議のみでなく、常々職員間でも話し合っており、特に入居者外泊及び帰園後、入浴時が一番判明しやすく、万が一あった場合は家族に詳細を聞く様心掛けています。又、日中のケア時は一人にしないように声かけを行なっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	自立支援はもちろんの事、後見人制度については、社長、施設長が勉強されています。又、同系列のディサービスで成年後見人制度を活用しており、担当の後見人の方とも常に相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に具体的な説明をし、本人、家族と事前面談を行なっています。特に急変時対応を理解していただくようにしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者の不満、苦情があった場合には管理者や職員は家族の方へ連絡し、家族の方の声及び意見を参考し反映させています。苦情処理委員会を設け、玄関に意見箱を設置して投函していただくようにしております。	利用者からは日々の生活の中で意見を聞き、家族からは、ホーム便り「こあら」を家族に送付し、利用者の生活状況やホームの取り組み等を報告し、面会時に話しかけ、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意し、出された要望で、ホームで髪のカッティングなどの支援がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や業務時などで職員の意見や提案を聞くようにし、運営に反映しています。また必要に応じ、代表者や管理者から職員への意見の問いかけも行なっています。	代表者や管理者は、職員会議や毎朝のミーティングで、職員の要望や意見を聞くように心がけている。日頃からコミュニケーションを図り、相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。個別記録やチェック表の書式の改善で見易くなり、ケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の離職を無くするよう努めています。勤務状況もなるべく本人希望休みも聞き入れ、毎年少量ではあるが昇給も行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会、各方向からの研修、講習会に参加しており、報告書を提出させて発表の場を作りサービス向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山南部地区開催の勉強会に参加し、その内で同業者の方と話し合う機会もあり、お互いの困難事例、その他を学ぶようしております。又、南谷山地区ＧＨ、宅老所で連絡協議会を立ち上げ様々な意見交換をしております。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と電話及び来所され相談がある場合にご本人より困った事、困っている事をよく聞き取り、不安な事は何かを受けとめるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族来所時、又は電話にてよく話し合う機会を設けて、困っている事に傾聴し、ご家族の不安を取り除くよう、機会を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がサービス利用で一番何を求めているかを本人、家族と十分な話し合いをし、その中から求めているものを見極め、様々なサービス利用（提供）を考慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に調理の下ごしらえをしながら献立を教えて頂いたり、また職員も折紙を教えたりとお互いが協力し合っています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のいろいろな思いを面会時にケアマネージャー、管理者、職員が聞き取り、お互いの悩み事を話し合いながら支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、住んでいた地域と離れた人は電話、手紙、葉書等で交流を図るよう支援し、家族の協力も得られています。これまでの生活歴も家族及び本人より聞き取り全員で把握しています。	馴染みの友人知人の訪問があったり、電話や手紙・葉書などで交流ができるよう支援している。家族の協力で馴染みの理美容院を利用したり、外食や墓参・自宅への日帰り等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内でのリハビリ体操やレクレーションの中でお互いに意思の疎通が取れ支え合っています。うまくコミュニケーションが取れない時は、職員がお互いの話を傾聴し、コミュニケーションが取れるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用停止していても、ご家族にはいつでも相談にのれる様、家族との関係は保っている。又、他施設等移動がある時も受入れ施設と連絡を密にし話し合いもしています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望・思いを聞き取り、利用者本位のケアが出来るよう努めています。ケアマネージャーのもと、管理者及び馴染みの職員も聞き入れに同席し、密に希望意向を聞き入れています。聞き入れ困難な場合はご家族よりお話を聞いています。	日々の生活の中で声をかけ、言葉や表情・サインなどから推し測り、思いや意向を把握している。意思疎通が困難な時は、家族や関係者からの情報を得るようにし、本人本位の生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご本人、家族から聞き取り、職員全員で把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、一日の過ごし方は様々であり、その利用者にあった生活が出来るよう、アセスメントして把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議又は、スタッフカンファレンスを開催し、本人、家族にも同席して頂き意見を出し合い介護計画を作成しています。	主治医の意見や日々の気づき・介護記録・家族の意見などの情報をアセスメントし、介護計画を作成し家族に説明している。モニタリングは3ヶ月に1回で、介護計画の見直しは、原則6ヶ月に1回であるが、状況の変化に応じて介護計画の作成をしている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者本人の言葉を用いた記録を行い、本人の思いに気付くよう、職員同士情報を共有しながら見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院支援（病院受診）、自宅帰省、墓参り、本人家族の希望があれば出張マッサージ、鍼等を状況に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア参加によるレクリエーション、消防避難訓練、文化施設への訪問、地域の町内会長、民生委員から地域の情報や助言を貰っています。又、警察、消防には消防訓練を含めできうるかぎり来園していただくようにしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人の心身状況を考慮した医療機関を受診していきながら適切な医療を受けられるようにしています。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。歯科など訪問診療もある。受診は原則家族に協力依頼をしている。職員が同伴する場合もある。協力医療機関への外来受診は職員が同伴、適切な医療が受けられる体制になっている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医である敬愛クリニックに月１回以上の受診をし、なじみの関係を築き看護職員、介護職員と日常の健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された後にも病院に出向き担当医師の説明を受けその情報をもらい、家族の希望に沿えるよう相談にのり、いつでも戻れるように連携しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身状況を日頃より報告しており重度化した場合の対応については本人、家族、医療機関と話し合っている。又、家族に対して重度化になった場合の対応に対してアンケートにて解答をもらっています。また、重度化や終末期に向けた対応の指針を作成しています。	重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、家族に対してアンケート調査を行っている。状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し医師を含む関係者で話し合っている。職員全員がその方針を共有している。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療業務協力を結んでいる医療機関より来ていただき、施設内にて救急蘇生等の研修を行なっています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間で想定し避難訓練を行なっている。運営推進会議開催の内で災害時には地域住民の方々の協力を得るように働きかけを行なっています。	年2回、消防署の指導のもと、地域代表者の参加を得て、昼夜間想定の避難訓練を実施している。避難場所も設定している。緊急対応時の地域住民のリストも掲示してある。非常用として水やカロリーメイトなどの食糧も備蓄している。スプリンクラーや防災設備もある。	
協力者					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する契約を家族及び職員と取り交わしています。誇りやプライバシーを損なわない声かけ等で対応しています。記録も適切な取り扱いに気を配っています。	職員会議等で勉強会を行い、本人の気持を大切に考えてプライバシー保護について施設内研修を実施し、職員の資質向上に取り組んでいる。排泄や入浴支援時は、声かけや対応に留意している。個人記録等の管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の好みの物、希望することを問いかけ、本人の意思決定を重視しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の流れに利用者を沿わせず、一人一人のペースによって本人の望む生活を支援しています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	できうる限り自分の好みの洋服が着れるよう、本人に問いかけ選んでもらっている。散髪や頭髪染め、等々も本人の希望に合わせています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	箸の並べ、味見、お茶等、行なっている。できない方には職員が手伝っています。	利用者の好みを聞いて、嗜好に配慮した献立を工夫している。誕生会はケーキを出したり、行事食が楽しみなものになるよう努めている。力量に応じて準備や後片づけを職員と一緒に行ったり、ツワムキなども楽しんでいる。家族と外食して刺身などを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶や水は常時飲めるように工夫し食事時は、毎食摂取量をチェックしている。水分補給に関して密に利用者とコミュニケーションをとり、その度に声掛けをし、水分補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシを使用しての口腔ケアの自立支援及びポリデント等による義歯洗浄を週１回行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員ではありませんが、基本的にオムツを使用せず、下着も布パンツを使用、排泄は昼夜共にトイレを使用してもらっています。状態によってリハビリパンツにてトイレ使用してもらっています。トイレにて排泄困難な方のみオムツ使用しています。	オムツはずしを目標に、利用者の排泄パターンに基づき、昼夜間トイレ誘導をしている。声かけには十分配慮し、羞恥心に対する心遣いをしている。改善がみられた例があり、家族の喜びも大きい。オムツの当て方なども意見交換しながら改善できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等、食物繊維の含有を摂るようにし、水分をこまめに取るようにしている。又、軽体操を毎日行い排便確認をして便秘による体調不良を防ぐようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週３回の入浴とし、月水金及び火木土と入浴日を定めているが、失禁時、体調不良時を考慮し、その時の利用者に合ったタイミングでいつでも入浴できるよう努めています。	基本的には週3回であるが、希望に添った入浴ができるように支援している。入浴を拒む利用者には職員間で連携し、声かけなどを工夫したり、状況改善に努め、清拭をしたり、臨機応変に対応し入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、それぞれ好きな時間に居室に行かれ入眠されている。休憩に関してもご自分の好きな時、休息されています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が処方されている薬の服薬台帳を作成し、職員全員が理解し服薬支援を行なっています。又、変化があった場合、主治医と連絡を取り合い服薬支持を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には洗濯物たたみ、調理の味の確認をする役割があり楽しんで行なわれている。歌や踊り等その方々の生活歴、趣味に活かした生活を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に出掛けたり、隣接する同系列のデイサービスと合同で園外散歩にも行かれる。又、家族の協力を得ながら墓参りや食事等に出掛けるように支援しています。	天気の良い日は、近くの散歩コースを散歩し公園に出かけている。計画を立てて隣接する同系列のデイサービスセンターと合同で花見や公園に出かけたりしている。家族の協力を得て墓参や買い物・外食などにも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭管理のできる利用者がいらっしゃらないので、お金を所持している方はいないです。金銭管理のできる利用者がいらっしゃれば、個人で財布を持たれ家族同意の下で管理して頂きます。又、利用者の希望があればスタッフ同行で自由に買い物ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけたい希望があれば、いつでも事務所よりかけていただきます。葉書や手紙、年賀状等も書いてもらっています。又、手紙、年賀状も相手の方より頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井からの採光や窓からの外の様子から今日の天気がわかり、山からの季節感も感じられます。横にはＪＲの線路があり電車の音があり生活感も感じられます。ホーム内で生花や季節にあった装飾品を採り入れています。	共用空間は換気や採光に配慮し、掃除も行き届き清潔である。壁には職員と利用者で作った季節の作品や季節感を大事にした飾りつけがなされている。人生の標語なども掛けられている。ホームに隣接してＪＲの線路があり、汽車の定期的な音に生活感が感じられる。ゆったりした椅子等で居心地よく過ごせるような工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	肘掛け椅子が並んでいる所で腰掛け仲良く語ったり、ご自分の居室に招かれベッドの上に腰掛け、お話されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドは備品であるが、他の物は本人の好みの物が持ち込まれ、タンス・ベッドの位置も家族と話し合いながら自分が居心地よいように工夫されています。	居室の入口には、利用者の写真が掛けられている。タンスとベッドは設置されている。家族と相談しながら、仏壇や家具・写真・時計・洋服掛け・暖簾など、利用者が使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー全面に手擦りを設置し、段差無くバリアフリーとなっています。トイレ、風呂場、浴槽内にも手擦りを設置しており自立できるように工夫しています。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36, 37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9, 10, 19）		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない